様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２７ 年　 ６ 月 １４ 日現在

機関番号：３２６０１
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2011～2014
課題番号：２３５３１０２３

研究課題名（和文）欧米の福祉国家と子ども観の社会史的展開に関する比較教育思想史的研究

研究課題名（英文）Comparative Edcational Thoughts in the Social History of Western Welfare States and Childhood

研究代表者
北本　正章（Kitamoto, Masaaki）

青山学院大学・教育人間科学部・教授

研究者番号：１０１８６２７３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　4,000,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究は、近現代史における欧米各国の福祉国家の登場期に見られた児童福祉政策を支えた子ども観の社会的な展開を解明することを通じて、現下の福祉国家における子ども政策の歴史展望を拓き、その教育思想史的価値観を解明するとを目的として進めた。
　その成果として、欧米の福祉国家の成立に及ぼした子ども観として、原罪論的子ども観、合理主義的子ども観、感覚論的子ども観、ロマン主義的子ども観が重層的な社会史を形成し、近現代では、科学的な発達論的子ども観と社会構成主義的な子ども観が福祉国家の子ども政策に大きく影響したことを解明し、論文「教育と福祉の社会史における子ども観の変遷」にまとめた。

研究成果の概要（英文）：This study intended to explore the historical perspectives of the child-policy in the Welfare States in the present through elucidating social development of the ideas of children and childhood which supported a child-welfare policy for the nascent ages of the Modern Welfare States of the West in the modern history and pushed forward values in educational thoughts.
 As the result, ideas of childhood which gave diverse influences to establishment of the European and American Welfare States, for example, the childhood of the original sin, ideas of the rationalistic childhood, ideas of the sensualistic childhood, ideas of the Romantic childhood formed multilayer social history, and elucidated the ideas of scientific developmental childhood and social and cultural constructural childhood have influenced the child-policy of the Welfare States, and gathered them up an article in "Vicissitudes of Children and Childhood in the Social History of Education and Welfare of the West".

研究分野：教育学

キーワード：子ども観　福祉国家　社会史　近現代ヨーロッパ　比較教育思想史　児童保護　子どもの遺棄　子ども政策

１．研究開始当初の背景

（1）近年、児童福祉法の改正、少年法の改正、幼保一元化政策の展開など、福祉国家における子ども政策は、工業先進国に共通して精力的に取り組まれており、子ども政策に関わる政治、行政、経済、法制度などの研究が活況を呈してきている。その中で、子どもに関する総合的な学術研究分野も構築されつつある。

（2）このような福祉政策の見直しとそれに関わる政策原理の思想的、歴史的な根拠の学術的な確認作業は、福祉国家における教育と福祉の連繋を考える上で、喫緊の課題となっていた。

（3）申請者はこれまでに、欧米における家族史研究、子ども観の社会史研究、教育の社会史研究などの分野において、とくに欧米における代表的な研究書の邦訳紹介などを手がける一方、子ども観の社会史研究に関する個別テーマでの研究を蓄積的に展開してきた。

（4）そこで、近代福祉国家成立期の欧米における福祉政策の子ども観がどのような社会史的展開を見せたのかを明らかにすることによって、近現代史における教育と福祉の関係を、複数の子ども観の社会史的な展開を軸に解明するという研究課題を着想するに至った。

２．研究の目的

（1）本研究は、近代福祉国家成立期の欧米における福祉政策がどのような子ども観を背景にしており、その政策と理念がどのような社会史的展開を見せたのかを明らかにすることを目的としている。

（2）より具体的には、子どもの救済、保護、教育、自立支援など、子どもに対する公的福祉政策の諸段階が、慈善団体、教会組織、政府などのレヴェルにおいて、いかなる子ども観が基本理念として、また改革理念として構想されていたのかを解明することを本研究の成果目標とした。

（3）本研究では、以上の成果目標を得ることによって、わが国における「新しい子ども理解の教育学」の学術的視野を広げるとともに、子どもの教育と福祉の諸問題を包摂している子ども政策の思想的・理念的な学術基盤の構築に貢献しようとするものである。

３．研究の方法

本研究では、子どもが現実の社会関係で経験する事実、生活実態、家族生活や人口動態に翻弄される子どものライフサイクルの実態など、主に子どもが実際に経験する現実的な問題状況（experiences of children）を対象とする実証作業と、子どもの存在をどのように捉えるのか、その関心の所在や理念、子どもに対する価値観の問題などを、子ども期の理念問題(ideas of childhood)として捉える分析作業の 2 つに分けて進めることとした。

（1）子どもの実態に関する研究対象として、子どもの救済、保護、教育、自立支援など、子どもに対する公的福祉政策の諸段階が、慈善団体、教会組織、政府などのレヴェルにおいて、どのような子ども観が理念として構築されていたのか、その諸相を子ども福祉史、児童労働史などの分野の先行研究と資料から解明する方法を採った。

（2）子ども期の理念に関する諸問題の解明のために、キリスト教思想、教育思想、道徳思想、児童文学、子どもに関する児童法、児童虐待防止法、社会福祉制度、社会思想などを支えた理念あるいはイデオロギーが映し出されている観念分野の先行研究と資料を分析対象とした。

（3）これらの作業を通じて、世界の子ども学研究の動向を把握し、「新しい子ども理解の教育学」の学術的視野を広げるとともに、子どもの教育と福祉の諸問題を抱えているわが国の子ども政策の思想的・理念的基盤の構築に、どのような経験がどこまで参考になるかを分析することとした。

４．研究成果

教育と福祉の関係を社会史的な展開の中で解明するには、さまざまな複合的な分野の研究動向を知り、なおかつその動向の中から一定の分析枠組みに基づいた関連づけや因果関係の解明が必要となる。

（1）このため、本研究の研究課題について、20 世紀末以降、各国において研究動向に活性化が見られる「新しい子ども学」(New Studies of Children and Childhood)における分析視点と分類枠組みに考察を加え、本研究の分析視点として援用することとした。これを「新しい子ども学の対象分類に関する考察」と題して、世界子ども学研究会の第 14 回研究例会（2015 年 3 月 27 日、神戸女学院大学で開催）において口頭発表した。そこでは、以下のような 20 項目にわたる研究対象分類と方法分類を援用して、子どもをめぐる教育政策、福祉政策、経済活動や法律政策、消費文化と子どもの教育文化などの問題領域についての分析視角を得た。

①子ども期の歴史と理論(History and Theories of Childhood)、②グローバル展望のなかの子ども期(Childhood in Global Perspective)、③歴史のなかの子どもたち(Children in History)、④育児と家族関係(Parenting and Family Relations)、⑤教育と学校教育(Education and Schooling)、⑥遊び・音楽・娯楽(Play, Music, and Entertainment)、⑦物質文化と子ども空間(Material Culture and Children’s Space)、⑧人種とジェンダー(Race and Gender)、⑨心理学(Psychology)、⑩子どもの支援・保護・政治学(Child Advocacy, Protection, and Politics)、⑪法律と制度(Law and Institutions)、⑫経済学と労働(Economics and Work)、⑬工業化と都市化(Industrialization and Urbanization)、⑭宗教・儀礼・祝祭(Religion, Rituals, and Celebrations)、⑮児童文学(Children’s

Literature)、⑯子どもと子ども期の表象(Representations of Children and Childhood)、⑰青年期、および成人期への移行(Adolescence and Transitions to Adulthood)、⑱健康・医療・病気(Health, Medicine, and Disease)、⑲身体とセクシュアリティ(Body and Sexuality)、⑳現代社会の子ども期(Contemporary Childhood)。これらは、ポーラ・S・ファス監修（北本正章監訳）『世界子ども学事典』（原書房より近刊）と『新しい子ども学の基礎資料集（仮題）』（原書房より近刊）に本研究の成果として反映できる見込みである。

（２）上記の研究と並行して成果を得たのは、本研究計画の総まとめとして執筆した論文「教育と福祉の社会史における子ども観の変遷――原罪論的、合理主義的、感覚論的、ロマン主義的子ども観の時代から科学的発達論と社会構成主義的子ども観の時代へ」である。この論文では、社会福祉史における子ども観の問題を、「子どもに最善のものを与える義務」と見たジュネーブ宣言(1924 年)の文脈で捉え、子ども観史研究による歴史展望の再構築が、複数の子ども観が社会史的に重層構造をなしていることを解明した。子ども観史研究の多元的アプローチを採ることによってこの重層性を解明することができ、「原罪論的子ども観」、「合理主義的子ども観」、「感覚論的子ども観」、「ロマン主義的子ども観」という、近代史の中の４つの子ども観の時代の後、「科学的発達論的子ども観」と「社会構成主義的子ども観」の時代を迎えることになった経緯を解明した。これらの重層的な子ども観の展開は仮説図まとめることができた。

（３）この仮説図によって考察を深めることが可能になった点は、この推移の中で、福祉と教育の間に３つの段階が存在することであった。すなわち、まず、劣悪な状況に置かれている子どもを「救済」する第一段階、子どもに食糧と医療と住居を提供して「保護」する第二段階、そして最後に福祉的な保護施策に対して、成長する子どもや青少年がいつまでも保護組織や制度に依存しなくてもすむように社会生活に必要な言語感覚、道徳性あるいは道徳的感性、そして、職業能力や資格技術、生活技術を習得して「自立」できるようになるのを援助する「教育」をほどこす第三段階の３つである。この３つの機能あるいは３つの段階が子どもの福祉と教育の関係を構成していることを解明した。子どもと教育のあり方に社会史的な考察を加えようとすると必ず対象として浮かび上がってくるのは「救済」と「保護」と「教育」である。これら３者はバラバラにではなく一体的で連携的、そして連続的な形成作用として子どもにはたらきかける営みであって、どれか一つだけを取り上げて問題の構造が見えてくるわけではない。そこで本研究では、この３者の関係を通底してどのような子ども観、発達観、教育観が子どもの救済と保護と教育の準拠枠になってきたのか、その経緯を社会史的に探ってみることで、近世と近代の４つの子ども観を受けて、医学と生理学を基礎にした心理学的な科学的発達観、そして「歴史における子ども期の発見」を契機に認識が深められてきた社会文化史的な観点に立つ社会構成主義的子ども観の積層を素描することが出来た。この試みは、21 世紀を展望する子ども観を構築するのに役立つとともに、各時代と社会において互いに重畳している子ども観の積層を明らかにするための基礎作業として有効であった。

＜主な参考文献＞

□カニンガム（北本正章訳）『概説　子ども観の社会史――ヨーロッパとアメリカにみる教育・福祉・国家』（新曜社、2013 年）
□ヴィンセント（北本正章監訳）『マス・リテラシーの時代――近代ヨーロッパにおける読み書きの普及と教育』（新曜社、2011 年）
□神宮輝夫・高田賢一・北本正章（編著）『子どもの世紀』（ミネルヴァ書房、2013 年）

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計２件）
①北本正章、読み聞かせの社会史点描、『絵本から学ぶ子どもの文化』、同文書院、査読有、2015 年、26-29

②北本正章、教育と福祉の社会史における子ども観の変遷――原罪論的、合理主義的、感覚論的、ロマン主義的子ども観の時代から科学的発達論と社会構成主義的子ども観の時代へ、世界子ども学研究会紀要『ハルシオン』、査読有、第５号、2015 年、1-15

〔学会発表〕（計　１　件）
①北本正章、新しい子ども学の対象分類に関する考察、世界子ども学研究会第 14 回研究例会（2015 年 3 月 27 日、神戸女子大学で開催）

〔図書〕（計　１　件）
北本正章ほか、同文書院、浅木尚実（編著）絵本から学ぶ子どもの文化、2015 年、267 頁

〔産業財産権〕
○出願状況（計　０　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　０　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者

北本正章（KITAMOTO, Masaaki）

青山学院大学教育人間科学部・教授

研究者番号：１０１８６２７３